

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.101

2017.6.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.101 目次

平成 29 年度総会報告（収支報告）	2
島根県の油汚染鳥救護講習会を終えて	3
WRV・役員の再任および新任について	4
理事就任挨拶	5
平成 28 年度 野生動物救護獣医師協会講習会・開催報告	6-8
平成 28 年度 油等汚染事故対策水鳥救護研修 実施報告	9
馬場國敏先生の新たな挑戦	10
新任挨拶	11
寄付のお礼	11
事務局日誌	11-12

平成29年度総会報告（収支報告）

平成29年4月1日（土）に平成29年度総会がWRV・立川事務所にて開催され、全ての審議案件について承認されました。以下に、平成28年度収支報告・平成29年度収支予算を改めてご報告致します。

会計報告（特定非営利活動）

平成28年度収支報告書（平成28年1月1日から平成28年12月31日まで。単位：円）

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	864,000	事業費	
事業収入	445,000	①傷病野生動物の救護と野生復帰	247,881
委託事業収入	8,475,315	②病性鑑定及び疫学調査	0
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	6,116,184
寄付金収入	34,351	④野生動物の傷病予防に関する事業	0
預金利息	4,836	⑤生物多様性の保全に関する事業	0
雑収入	0	⑥野生動物の救護施設に関する事業	0
収益事業会計繰入金	0	⑦他団体との交流	152,085
収益事業収入	260,980	⑧収益事業原価	42,421
		管理費	2,724,604
		租税公課（消費税）	473,600
当期合計金額	10,084,482	当期合計金額	9,756,775
当期収支差額	327,707		
法人税等充当金	-70,000		
前期繰越収支差額	36,431,971		
次期繰越収支差額	36,689,678		

<平成28年度の主な事業実績>

- ・環境省水鳥救護研修センター業務請負事業（水鳥救護研修・情報整備事業等）
- ・同請負事業及び岡山県の協力による現地研修（岡山県岡山市）の実施
- ・日本獣医生命科学大学、帝京科学大学、東京環境工科専門学校 等委託特別実習の開催
- ・傷病鳥獣救護活動、および診療カルテの集約、学会参加等
- ・「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンの実施（共催）
- ・ボランティア向け講習会の開催
- ・関係団体との事業協力および事業への参加（本部、各支部）
- ・学術講習会の開催（東京都支部、本部）
- ・東京港野鳥公園フェスティバル等に出展（本部、東京都支部、神奈川支部）
- ・野生動物リハビリテーター養成事業（神奈川支部、大阪支部）
- ・東京都内にてリハビリテーター養成講習会の開催

ーその他

平成29年度予算案（平成29年1月1日から平成29年12月31日まで。単位：円）

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	850,000	事業費	
事業収入	450,000	①傷病野生動物の救護と野生復帰	330,000
委託事業収入	8,400,000	②病性鑑定及び疫学調査	20,000
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	6,420,000
寄付金収入	50,000	④野生動物の傷病予防に関する事業	10,000
預金利息	0	⑤生物多様性の保全に関する事業	10,000
雑収入	0	⑥野生動物の救護施設に関する事業	10,000
収益事業会計繰入金	0	⑦他団体との交流	150,000
収益事業収入	250,000	収益事業原価	40,000
		管理費	2,600,000
		租税公課（消費税）	410,000
当期合計金額	10,000,000	当期合計金額	10,000,000
前期繰越収支差額	36,689,678	当期収支差額	0
		法人税等充当金	0
		時期繰越収支差額	36,689,678

島根県の油汚染鳥救護講習会を終えて

WRV大阪支部長 中 津 賞

島根県獣医師会主催の油汚染鳥救護講習会が、2月8日午前10時から開催されました。今回は中津、石原獣医師と野生動物リハビリテーターの堂上氏の3名が、WRV大阪支部から派遣されました。受講者は傷病野生鳥獣救護ドクター（獣医師10名）、県及び市町村の担当職員6名、松江ビジネスカレッジ動物看護科学生4名の合わせて20名と、出雲農林高校の1年生40名です。

会場は、島根県立出雲農林高校の講義室と実習室をお借りしました。高校は広大な敷地に農場、温室、各種動物飼育室がゆったりと配置され、20数羽まで減少した「出雲コーチン」の系統繁殖が行なわれていました。また、触れ合い動物園も土日に開園し、多くの一般客や、平日には、時に近くの保育園や幼稚園、小学校の生徒が集団で遊びに来るようです。前日の診察終了後に大阪を出発して、深夜に出雲市駅前に宿泊。朝8時30分にタクシーで高校へ行きました。獣医師会の理事の先生方が沢山既にお集りで、学校の先生の応援も得て、早速、予め送っていただいた荷物を解いて、講義と実習の準備に入りました。何しろ今回は、一日という短時間ですし、60名という大所帯ですから、うまくこなさないと良い実習が出来ません。

当日は、最初の50分で油等汚染鳥の救護法について中津が講演し、石原獣医師が羽根と油の実験を供覧しました。隣接した大きな実習室には、中央にお湯を貯めた水槽が堂上氏によって用意されています。実習用のアヒルは、高校の動物園で飼っているオスの青首4羽と、メス1羽が提供されました。午後からすぐに実習に入れるよう、救護センターでの手順通りに、順次デモンストレーションを開始。先ずケージからのカモの出し方、保定法を示し、台上で身体検査として、聴診部位、瞬膜、総排泄孔、耳孔、嘴の内面の襞、下嘴の硬組織と皮膚の軟弱な部位の説明と確認、気管開口部、後鼻孔を見てもらいました。次に温湯に1%の洗剤(JOY)を混入して、水槽にカモを肩まで浸けました。1名は保定専用で、溺れないように注意し、もう一人は歯ブラシで、洗剤を頸部以上の短い羽毛の中に送り込む様にして、洗浄を開始しました。頸下部の洗浄、翼の表面、下面、更に体躯の綿毛には掌で水流を作り、激しくぶつける手法等を供覧しました。アワがあふれるほどに立つくらいの水流を作れる様に練習すること。泡立ちが良いほどうまく洗浄出来ると説明。次に、油の落ちにくい部位を示し、第3者にその部位の油の残存を白い紙を使って点検してもらう事もお話ししました。続いて、温流水で濯ぎに入りました。洗剤の除去に伴って、水を使っているのに羽根が乾いて行く過程では、歓声上がるほど実感してもらえたようです。十分に洗浄してから乾燥箱に移し、ドライヤーで熱風を送り、数時間乾燥する過程を説明してデモを終えました。

そして午後1時から、先発実習班の20名(県職員、開業獣医師、看護学生)の実習を、午前中に見せたデモンストレーションの手順に従って実施しました。今回は血液検査を省略しましたので、かなり時間も節約できました。看護学生4名も非常に熱心で、要点の把握も技術の習得も早く、後半の高校生40名の実習も手伝ってくれる程でした。その先発の実習中には、高校生は別の授業を受けていましたが、午前中にスライドやデモで実習の手順を示しておきましたので、後半2時からの高校生の実習も、スムーズに進行しました。皆さん熱心に聴診からはじめ、体の各部位を検査し、活性炭液、流動食の経管投与も体験して頂きました。その後洗浄法、乾燥法へと進み、看護学生が積極的にアドバイスしている様子を見て、大変頼もしく思いました。



午後3時30分には実習が終了し、早速撤収するために荷造りを始めました。獣医師会の理事の先生方には、高校との折衝や、温湯の確保等大変お世話になりました。お陰様で、実にスムーズに全てを予定通り終える事ができました。しかし、今回は時間が限られていた事、実習人員が多過ぎた事等、反省点も沢山ありました。やはり全体として、1日半くらいの時間が必要であると実感しました。当日はほとんど無風で曇りでしたが、翌日から島根県東部は今季最大の積雪に見舞われ、我々は非常にラッキーな一日を過ごすことができました。

水鳥の汚れ丁寧に洗浄

農林高で救護講習会
動物科生徒や
県職員60人
汚染事故備え訓練

油などの汚染事故による水鳥の救護講習会が8日、出雲市下横町の出雲農林高校であった。参加した同校動物科学科の生徒や松江総合ビジネスカレッジの学生、県職員ら約60人が、カモの洗浄実習に取り組み、対応方法を学んだ。

講習会は県獣医師会が（安食政幸会長、会員274人）が毎年開催。今回は、鳥類の撥水性について体感してもらい、万一の場合の知識も養おうと、初めて実習を取り入れ、講師は、堺市の中津動物病院の中津賞病院長（73）が務めた。

同校で飼育するカモを、安全を考慮した上で洗浄の入った水の中に入れ、その後、園部付近を園フラシでこすり、羽や胴体は、痛めないうちに手を洗って洗い、

お湯をかけて流した。お湯で洗い流している途中、羽の撥水性が回復し、水をはじく様子が見られた。

松江総合ビジネスカレッジ動物学科1年の加納貴実（さん19）は、洗っているうちに撥水性を取り戻したことに触れて「羽に大きな変化があり、驚いた」とし、「普段鳥類に触れる機会は少ないので、いい経験になった」と話した。

（組田守治平）

カモを洗浄する参加者



講習会の模様が掲載された新聞記事

WRV・役員の再任および新任について

本年4月に行われましたWRV総会および理事会におきまして、役員等の再任ならびに新任の承認がなされました。以下にその名簿を掲載いたします。任期は2年となっておりますので、会員各位におかれましては、以後改めてよろしくお願い申し上げます。（それぞれ五十音順で記載）

会 長	新妻 勲夫（新妻動物病院 院長）
副会長	大窪 武彦（おおくぼ動物病院 院長）
副会長	小松 泰史（新ゆりがおか動物病院 院長）
理 事	加藤 卓也（日本獣医生命科学大学 講師）
理 事	小山 正人（高坂どうぶつ病院 院長）
理 事	田向 健一（田園調布動物病院 院長）
理 事	中津 賞（中津動物病院 院長）
理 事	馬場 國敏（馬場総合動物病院 院長）
監 事	倉林恵太郎（倉林動物病院 院長）
監 事	町田 忠彦（町田家畜病院 院長）

上記のうち、新たに理事にご就任いただいた小山正人先生より、新任のご挨拶を頂戴しましたので、次ページに掲載させていただきます。



理事就任挨拶

高坂どうぶつ病院 小山 正人

特に実績というわけではありませんが、経歴と野生動物救護活動を始めるきっかけを少々書かせていただきます。

平成6年3月北里大学を卒業後3年間、後志農業共済組合黒松内家畜診療所に勤務、主に乳牛の診療や人工授精業務を行っておりました。その間に酪農学園大学で開催された、当時森田先生が代表を務められていました野生動物救護研究会の第一回野生動物救護技術講座に参加したことが、最初の傷病鳥獣救護との関りだったと思います。

その後、平成9年4月からは埼玉県熊谷市のあらい犬・猫・鳥の病院に職場を移しました。そこは県の傷病鳥獣指定診療機関の委託を受けており、多くの野鳥やタヌキなどの診療が行われていたため、院長の新井先生からは野生動物の取り扱いや診察の基本の多くを学ばせていただきました。

平成13年4月に埼玉県東松山市で獣医師の妻と二人で動物病院を開業しました。妻和美は、北里大学在学中から青森県内を中心に野鳥の調査保護活動に参加していたこともあり、将来は野鳥を診察する病院を開業することを望んでおりました。在学中もホシハジロやノスリを自宅アパート浴室で保護するなど、当時の友人たちから今でも語り草になる程の鳥好きでした。卒業後、埼玉県川口市の池谷犬・猫・鳥の病院に勤めた後、私と一緒に病院を開業して現在に至っております。そのため、今でも鳥の識別や生態について、妻から教えてもらうことが多くあります。

病院のある埼玉県東松山市を含む比企郡は、都心から1時間以内の立地ですが、丘陵地、水田、川や森林といった多様な地形が存在するため、多くの野生動物が生息し、県内他地域では消滅したような野鳥も見られます。傷病症例も年々増え、今では年間100例程の鳥獣を受け入れています。野鳥を保護飼養するために開業時に作った屋外運動場も、アオサギやゴイサギ、カワウ、カルガモなどの水鳥が常にいる状態です。毎年春から夏にかけては連日雛が保護されてくるので、病院内に置き場がなくなるほどです。また傷病鳥獣の治療に加え、最近では森林の生態系を守るためにアライグマの駆除活動に力を入れています。比企郡は県内で最も高密度にアライグマが生息しているため、オオタカやフクロウの巣が襲われたり、サンショウウオやヤマアカガエルが捕食されるという事態が発生しています。森林内8か所に設置した罠を毎日交代で見回り、捕獲時には現地で速やかに安楽殺処分をしています。

【最近気にかかること】

- ・ 昨年は5月中旬頃からの1か月間でタヌキやアナグマなどのロードキル死体を10体ほど発見しました。昨年「日本の市区町村のロードキル記録の現状」という調査報告で、何の記録もしていない役所が3割という結果でしたので、聞き取り調査したところ、やはり近隣市町村も記録してないことがわかりました。将来的には、ロードキルデータをきちんと記録して、梶ヶ谷先生が作成されたようなハザードマップを作成できればと考えております。
- ・ 警察からの依頼で猛禽類を保護するケースが増えてきました。鷹匠を気取って外で猛禽を放してしまい戻ってこなくなるようなのですが、問題は日本の在来種と同種の場合見分けがつかないことです。多くの場合、在来種が保護されても識別まではしないので、知らず知らずのうちに遺伝子の攪乱が起こっている可能性があります。これは、大阪の中津先生が取り組んでいる外来種の輸入問題と合わせて対処する必要があると感じております。
- ・ 野鳥の雛の場合、どのようなケースでも門前払いして引き取らない自治体が増えてきたこと、また保護する鳥種に優先順位をつけるという話が独り歩きして普通種は保護してもらえないと思っている人がいるということです。そのため動物病院に連れて行かず、ネットで調べて自己流で飼育してしまうケースが後を絶ちません。そうすると必ず、「1週間くらい前に保護したんだけど飛べなくなりました」と言って病院に連れてこられます。そうすると栄養障害の後遺症で放鳥できなくなり後の祭りということになってしまいます。
- ・ 埼玉県は傷病鳥獣保護ボランティアを養成する制度がなく、知識や技能がなくても登録すればボランティアになれる状態です。今はボランティアの数が少なくて預けられる状況にはないですが、質を高めていく必要もあります。新妻会長も東松山にお住まいということもありますので、WRVの協力を得ながら将来的には皆川先生が先導している神奈川県のような制度化ができればいいなと考えております。

自分の病院の運営だけで手一杯で、理事としてどれだけ貢献できるか自信がありませんが、WRVを立ち上げた先輩方の志を受け継ぎ、これからの時代にふさわしい野生動物救護獣医師協会を作るお手伝いが少しでもできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

平成 28 年度 野生動物救護獣医師協会講習会・開催報告

WRV事務局 箕輪 多津男

平成 29 年 1 月 14 日(土)に、平成 28 年度「野生動物救護獣医師協会講習会」(WRV 東京都支部・主催、WRV 本部・共催)を開催いたしました。

今回は、会場を東京環境工科専門学校に移しての開催となりましたが、野生動物の救護に関わっておられる獣医師や病院関係者のほか、獣医学や動物看護学、動物学等を学んでおられる大学生や専門学校生、あるいは自然保護団体の関係者など 40 名あまりの方々の参加をいただき、大変活気のある講習会となりました。

当日は、まず WRV の新妻勲夫会長より、開会の挨拶とともに、講習会の主旨、および昨今の野生動物をめぐる状況などについて語っていただきました。



WRV・新妻勲夫会長



講師：鈴木 創先生

続いて、(NPO)小笠原自然文化研究所の副理事長である鈴木 創(すずき はじめ)先生より、「小笠原諸島の生物相とその保全」というタイトルでご講演をいただきました。鈴木先生は、東京都小笠原支庁勤務を経て、2000 年に小笠原自然文化研究所を設立されて以来、長年に渡り、小笠原における絶滅危惧種や希少動物等の研究や保全活動に携わってこられました。中でもアカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリ、さらに近年になって新種認定されたオガサワラヒメミズナギドリを始めとする海鳥類等に関わる諸活動については、国内外から多くの注目を集めておられます。今回は、そうした分野における活動の一部をご紹介します。(※本文中の写真は、すべて鈴木先生に提供していただいたものです。)

まずご講演の冒頭で、小笠原諸島の特徴について解説いただきました。小笠原の島々は、その成り立ちにおいて、他の大陸と一度も陸続きになったことのない、純粋な海洋島群であるため、空を飛んだり、海を泳ぐことのできる生物以外は島に辿り着くことができなかったそうです。従って、そこに生息している野生動物としての哺乳類は、今もオガサワラオオコウモリのみとなっています。また、かつてはカラスバトを始めとする鳥類やアオウミガメなど、多様な生物の溢れる島々であったようですが、人々の入植以来、ネコの移入も加わって、多くの地上採食性の生物が姿を消すようになってしまいました。中でも、オガサワラガビチョウやオガサワラカラスバトを始めとする 6 種(または亜種)の鳥類が既に絶滅してしまい、残っているオガサワラカワラヒワとアカガシラカラスバトも個体数の激減から、その保全が急務となっています。

一方、植物種については、海流や風に乗ることができる種が辿り着いたほか、海鳥など飛翔性の動物種に種子が付着することによって島まで運ばれ、新たに定着していった種も多く、その気候とも相まって豊かな亜熱帯林を形成しています。逆に、海をこえることができないドングリなど(重力落下種子によって分散する)ブナ科の植物等は見当たりません。一般的に、熱帯林における種子散布はオオコウモリが主役の座を占めているようで、小笠原においては、森林の成り立ちにオガサワラオオコウモリが深く関わってきたと考えられます。また、小笠原諸島にたどり着いたのち、長い年月をかけて進化した多様な昆虫やカタツムリ(陸貝)類も、小笠原の固有生態系の重要なパーツとなり、世界的にも注目されています。

周辺海域に生息している海鳥類については、大海原によって隔絶された島々は、捕食者の心配もなく何より安全だったため、人が入り込むまでは、そこで繁栄を謳歌してこられたようです。近年になってオガサワラヒメミズナギドリのような新種が確認されたことも、そうした背景を物語っているものと思われます。



オガサワラヒメミズナギドリ



オガサワラオオコウモリ

こうした中、2011年には世界自然遺産にも登録された小笠原諸島なのですが、生物相の現状は大変厳しい逆風に晒されているようです。その大きな要因が、人が持ち込んだ外来種ということになります。トラツグミのような鳥類はまだしも、人の持ち込んだ哺乳類が特に問題となってきました。その中で、ヤギについては長年に渡る地道な取り組みにより、野生個体の除去が概ね達成できる見込みのようですが、クマネズミについては、順次対策を進めているものの、一定の成果を上げるためには、まだまだ困難な状況が続いているようです。

一方、飼い猫が野生化してしまったノネコについては、「小笠原方式」とも呼ばれる独特な方策によって対応が取られてきました。それは、地元の官民合わせた関係者と、東京都獣医師会など島外の協力団体とが、度重なる綿密な協議と準備を重ねながら、人々の日常生活圏におけるネコの飼養の徹底化、即ち「飼い主のいないネコを無くす」運動と（集落対策）、既に野生化して山や森林の中に生息するようになってしまった多くの個体の捕獲（山域対策）作業を、並行して実行していくという大変大掛かりなものでした。その際、捕獲したノネコは殺すことなく、新たな飼い主のもとで飼い馴らしていくという方法が採用されました。それまで自分よりも大きな海鳥類などを平気で捕食しながら、獰猛な野生獣として生きてきたノネコを馴らすことなど、とても無理なのではと思われていましたが、地元の方々と東京都獣医師会の関係者等の努力と協力の結果、その取り組みは現在に至るまで大きな成果を上げています。



カツオドリを捕食するノネコ(マイケル)



アカガシラカラスバト

こうした活動の結果、野生化したノネコの減少とともに、絶滅が心配されていたアカガシラカラスバトが、現在では400羽～600羽まで回復すると共に、海鳥の繁殖地の復活、オガサワラオオコウモリの個体数の回復など、顕著な成果となって表れてきていますが、最近では一部でリバウンド現象が確認されて来ているため、新たな対策を検討しているとのことでした。また、光に集まる習性のあるミズナギドリ類が、街中や路上に不時着して事故に遭うことを防ぐ手段として、巣立ちの時期等に合わせたライトダウンなど、新たな保全活動にも取り組んでおられるようです。

最後に、オガサワラオオコウモリを中心とする、地元の学校における環境教育の実践例等

について具体的にご披露いただき、会場からの複数の質問にお答えいただいたところで、一連のご講演を締めさせていただきました。

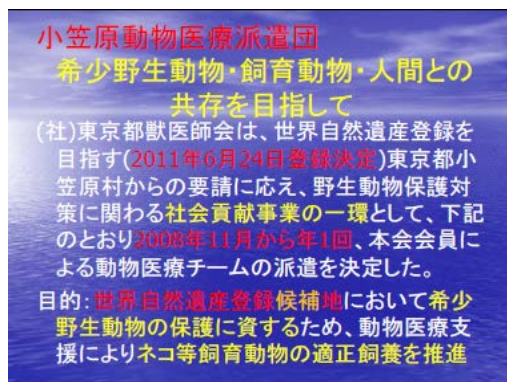
次に、WRVの副会長である小松泰史先生より、「小笠原におけるノネコ対策と今後に向けた取組み」と題するご講演をいただきました。

小松先生は、鈴木先生にもご説明いただいたノネコ対策に関して、東京都獣医師会のリーダーとして当初から陣頭指揮を取ってこられたご経験から、一連の事業の経過およびその成果、そして今後の取組みについて、改めてお話しいただきました。

ノネコ対策に関する初めての相談は、捕獲した後の安楽死に関するものだったそうです。その相談に対して、命の重さは鳥もネコも同じということで、決して殺すことなく、捕獲したノネコを何とか再び人と一緒に暮らしていけるよう、馴らしていくという方策を進めることを提案されました。そこで 2005 年 5 月より、地元の自然保護団体等関係者と、環境省、東京都、そして東京都獣医師会等が協力する形で、小笠原の野山で野生化してしまったノネコに関する「小笠原方式」の対策プロジェクトが始まりました。カツオドリを捕食したところを監視カメラに撮影され、1 か月後に捕獲されたマイケル(小松先生が今も飼っておられる)を皮切りに、2017 年 1 月まで、既に 682 匹のノネコが捕獲され、東京都獣医師会所属の 150 の関係病院に馴化作業の協力を得ながら、これまで病院関係者のみならず、里親など一般の有志の方々を含め、大変多くのノネコたちが、新たな飼い主のもとで健やかな生活を送るようになっていっているようです。また、小笠原からノネコを移送する際には、唯一の交通手段である船舶に頼ることになりますが、その運行会社である小笠原海運(株)がこれを無償で請負っていただいているとのことです。



講師：小松泰史副会長



こうした取組みによるノネコの激減と、現地におけるデコイ(模型)による誘導作戦等により、オナガミズナギドリやカツオドリ、アカガシラカラスバトの個体数の増加や繁殖地の復活が果たされ、小笠原における生態系保全活動が大きく前進しました。

なお、東京都獣医師会では、2008 年より年 1 回のペースで「小笠原医療派遣団」チームを派遣し、動物医療支援や飼育動物の適正飼養を推進してきました。また、本年 4 月から、父島に設立された「世界遺産センター」に獣医師をおくり、現地における日常的な対応を図ることになっております。そこで、会場にお越しいただいていた小笠原医療派遣団の団長を務めてこられた中川清志先生と、新たに世界遺産センターに着任される予定の荒井和美先生に、それぞれ現状や抱負について語っていただきました。

最後に、会場からのご質問にお答えいただき、小松先生はご講演を終えられました。

一連のプログラムの後、今回の会場の手配等にご尽力いただいた皆川康雄神奈川支部長に閉会の挨拶をお願いし、無事に本年度の講習会は終了となりました。

今回、講師としてご講演を賜りました鈴木創先生と小松泰史先生を始め、本事業にご協力をいただきました方々、あるいは当日ご参加いただきましたすべての方々に対し、改めて心より感謝の意を表したいと存じます。

平成 28 年度油等汚染事故対策水鳥救護研修 実施報告

WRV 事務局長 箕輪 多津男

平成 28 年度における「油等汚染事故対策水鳥救護研修」(環境省・請負事業)につきましては、第 1 回を平成 28 年 10 月 12 日～13 日、第 2 回を 11 月 7 日～8 日（以上現場リーダー向け）、そして第 3 回を平成 29 年 2 月 15 日～16 日（行政担当者向け）に実施致しました。本年度の研修会も、鳥獣保護行政担当者や動物園水族館関係者、獣医師、野生動物関連のボランティアの方など、様々な立場の方に各地よりご参加頂き、それぞれ 2 日間にわたる研修に、熱心に取り組んでいただきました。



一方、平成 28 年度の現地研修については、12 月 16 日に、岡山県の岡山市内にある岡山国際交流センターにて実施致しました。岡山県における研修会の開催は初めてということでしたが、年末の差し迫った時期ということもあり、参加者は 10 名程と少なめだったものの、行政や獣医師会あるいは各団体の責任者にあたる方々にご参加いただき、大変有意義な現地研修になったものと思います。質疑応答や、一部の方にご参加いただいた修了後の懇親会の際にも、各方面からそれぞれご意見をいただき、今後の対策を検討していく上でも、参考になる面が多かったものと感じております。

今後も現地研修については、未開催の地における実施を中心に、できる限り現地の対策に資する内容としていくことを検討していきたいと考えております。

最後に、研修の開催に当たり多大なご協力を賜りました、(一財)海上災害防止センター、日本環境災害情報センター(JEDIC)、(公財)日本野鳥の会、岡山県環境文化部自然環境課、及びご協力いただいたすべての皆様方に、心から御礼申し上げる次第です。



岡山県自然環境課長によるご挨拶



参加者の様子

馬場國敏先生の新たな挑戦

ちょうど一年前に発行された「WRV ニュースレター」97号において、(公財)日本鳥類保護連盟・総裁賞を受賞された模様を掲載させていただきましたが、あれから半年も経過していなかった昨年11月に、馬場國敏先生が突然、膵臓癌に罹患されてしまいました。馬場先生は湾岸戦争やスペイン、南アフリカなど、国内のみならず世界各地の油汚染現場において多くの被害鳥の救護に携わり、また阪神淡路大震災、あるいは有珠山(北海道)や三宅島の噴火の際など、多くの震災現場において、ペットや野生動物の救出活動にも尽力されてこられました。特に先の東日本大震災においては、1年あまりの長きに渡って福島県の現場における活動を継続され、その際に助け出した一部の個体については、今も動物病院のほうで、大切に面倒をみておられます。このように、これまで長年に渡り、常に第一線で野生動物や伴侶動物の救護活動に邁進してこられ、その間、ほとんど病気一つされることがなかった先生が、このような状況に見舞われるとは、誰も予想していないことでした。

そして治療に関して大きな決断を迫られる中、昨年12月の末、国立がんセンターにて外科手術を受けられました。それは12時間にも及ぶ大手術だったそうですが、奇蹟的にこれ乗り越えられ、その後も定期的な抗癌剤治療等を継続されながら、現在に至っておられます。

こうした事情から、長年に渡って活動を続けてこられ、またWRV神奈川支部も置かれていた「野生動物ボランティアセンター」は、やむなくその歴史を終え、現在、売りに出されている状況です。同時に馬場総合動物病院は、スタッフが一丸となって困難な状況乗り越えようとしておられます。馬場先生も治療に専念されつつも、体力回復のために自らの足で歩くなど、リハビリに懸命な努力をされておられます。そして、当分の間は、他の事など一切気にされず、ご自身の治療のことだけに日々を過ごされては、と当方は勝手に願っていたのですが、そこは馬場先生、じっとしてはおられません。

早くも裏の敷地に「野鳥ノ森 小鳥達の病院」なる施設を設置され、診療室を準備し、また収容ケージなども用意され、新たな活動を開始されました。抗癌剤の治療をされている最中に、こうした活動を新たに始められるなど、未だに聞いたこともありませんが、やはり馬場先生は常人とは違うようです。先日、久しぶりにお会いした際には、体力は見た目にもかなり落ちてはおられるようでしたが、気力は以前にも増して充実されているかのごとく、「一生をかけて野生動物のために尽くす」と宣言されました。そのお言葉に、むしろ私のほうが元気づけられているかの状況となってしまいました。いずれにしても、馬場先生の新たな挑戦に、WRVとしてもご協力させていただければと、意を新たにしているところです。(WRV 事務局長 箕 輪)



3月末に活動を終了し、現在は売りに出されている野生動物ボランティアセンター



「野鳥ノ森 小鳥達の病院」の外観と設置されたケージ

< 新任挨拶 >

WRV事務局 齊藤量子

この度、野生動物救護獣医師協会の職員として、水鳥救護研修センターを担当させていただくこととなりました、齊藤量子と申します。水鳥救護研修センターには、学生時代に水鳥救護の実習でお世話になりました。

この季節、センターの周辺は植物が生い茂り、窓からでも様々な生き物の存在を確認することが出来ます。中でも野鳥は存在感が大きく、目だけでなく耳でも楽しませて貰っています。そんな素敵な環境に建つセンターですが、窓ガラスにぶつかる鳥が後を絶ちません。ブラインドを下げたり、ポスターを窓に貼ったりして対策をとっていますが、やはり彼らとうまく共生していくには、工夫が必要であると考えさせられる毎日です。

今は新しい事を覚えるのにいっぱいですが、自分なりに考えを持って取り組んでいきたいと思えます。

まだまだ仕事の手も覚束ないですが、少しでも早く一人前になれるよう頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



◇お知らせ◇

2017年4月7日をもちまして、事務局の曾根友希恵さんが退職されました。

これまでWRVの活動にご尽力いただき、ありがとうございました。なお、曾根さんには、今後も本協会・神奈川支部の活動等をお手伝いいただくこともあるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【 事務局より寄付のお礼 】

寄付ご協力者（敬称略）（平成29年3月1日から平成29年5月31日）

○寄付金(一般)2017.3.10 中村富士子 10000円 ○寄付金(一般)2017.4.21 アミ動物病院(安田剛) 8,401円
○神奈川支部寄付金 2017.4.16 夢見ヶ崎動物公園飼育の日イベント 1,470円

事務局日誌 2017.3.18～2017.6.16

=== 3月 ===

18：春まつり（金沢動物園）[神奈川支部]	対応：皆川
20：SJD グルーミングスクール卒業式（ホテルベルクラシック）	出席：新妻
24：海岸の海ゴミ実態把握と清掃活動（三浦海岸）[神奈川支部]	対応：皆川
25：獣疫学会 学術集会（東京大学）	出席：加藤
26：麻布大学・麻門会総会（ゲイトシティ大崎）	出席：新妻
26：獣疫学会 担当理事・幹事会（東京大学）	出席：加藤
26：神奈川県野生動物リハビリテーター更新講習会（かながわ県民活動サポートセンター）[神奈川支部]	対応：皆川、箕輪
26：第35回わいわいサロン（神奈川県野生動物リハビリテーター交流会）[神奈川支部]	対応：皆川、箕輪
27：練馬区西青色申告会 理事会（西青色申告会事務所）	出席：新妻、町田
27：NOWPAP MERRAC テクニカルレポート提出	対応：中津、箕輪
28：東京都小動物獣医師会総会（東急レイ吉祥寺）	出席：新妻
28：平成28年度第3回東京都外来鳥獣（アライグマ・ハクビシン）防除対策検討委員会（東京都庁）	出席：加藤
29：メジロの違法飼育対応（神奈川県警察署）[神奈川支部]	対応：皆川
30：環境省水鳥救護研修センター・事業に関する打合せ	対応：箕輪、曾根、齊藤

=== 4月 ===

01：平成29年度WRV総会（立川事務所） 出席：新妻、小松、小山、倉林、小森、箕輪、曾根、齊藤

01：平成 29 年度 WRV 東京都支部総会（立川事務所）	出席：新妻、小松、倉林、小森、箕輪、曾根、齊藤
01：平成 29 年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」スタート	対応：箕輪
05：かながわ NPO 情報交換会（かながわ県民活動サポートセンター）[神奈川支部]	対応：皆川
14：意見交換等（須田動物病院）	対応：須田、箕輪、齊藤
15：WRV ニュースレターNo.100 発行	
16：飼育の日イベント（夢見ヶ崎動物公園）[神奈川支部]	対応：皆川
21：練馬区西青色申告会指導部委員会（西青色申告会事務所）	出席：新妻、町田
21：平成 29 年度かながわ環境教室・講師説明会（神奈川県庁）[神奈川支部]	対応：皆川
22~23：丹沢自然保護協会 植樹・総会 [神奈川支部]	対応：皆川
27：かながわボランティアフェスタ実行委員会（かながわ県民活動サポートセンター）[神奈川支部]	対応：皆川
=== 5 月 ===	
02：平成 28 年度 野生傷病鳥獣保護治療事業・確認 [東京都支部]	対応：小松、箕輪
06：神奈川支部・新事務所お披露目会 [神奈川支部]	対応：皆川
08：練馬区西青色申告会 理事会（西青色申告会事務所）	出席：新妻、町田
11：東京環境工科専門学校生・野生動物救護実習（東京環境工科専門学校）[神奈川支部]	対応：皆川
14：東松山動物慰霊祭（フレサ吉見）	出席：新妻
14：WRV 事業打合せ・文書確認等（東松山市）	対応：新妻、箕輪
16：WRV 理事および学会対応等に関する打合せ	対応：加藤、梶ヶ谷、箕輪
22：WRV 理事および事業に関する打合せ（馬場総合動物病院）	対応：馬場、箕輪
22：平成 29 年度東京都外来鳥獣(アライグマ・ハクビシン)防除対策検討委員会 第 1 回作業部会(多摩環境事務所)	出席：加藤
23：第 36 回わいわいサロン（神奈川県野生動物リハビリーター交流会）[神奈川支部]	対応：皆川
25：練馬区西青色申告会・一般社団法人設立総会（勤労福祉会館）	出席：新妻、町田
25：東京環境工科専門学校生・野生動物救護実習（東京環境工科専門学校）[神奈川支部]	対応：皆川
26：箱根山地のシカ問題を考える現地見学&懇話会（箱根山地）[神奈川支部]	対応：皆川
28：子供動物園フェスティバル（こども動物自然公園）	対応：新妻
28：第 65 回日本野生動物医学会 理事会（北海道大学東京オフィス）	出席：羽山、加藤
30：環境 NGO・NPO 能力強化研修・効果的な WEB・SNS 活用（NPO サポートセンター）[神奈川支部]	対応：皆川
30：かながわボランティアフェスタ実行委員会（あーすぷらざ）[神奈川支部]	対応：皆川
31：環境 NGO・NPO 能力強化研修・WEB 広報の改善と広告活用（NPO サポートセンター）[神奈川支部]	対応：皆川
=== 6 月 ===	
07：神奈川県野生動物リハビリーター12 期生対象・野毛山動物園動物病院（傷病施設）見学会 [神奈川支部]	対応：皆川
10：道路生態研究会総会及び第 4 回研究発表会（高速道路調査会）[神奈川支部]	対応：皆川
11：第 167 回麻布大学・麻門会（オペラシティタワー）	出席：新妻
11：コウノトリ採餌環境調査と生物多様性を育む水田管理作業（千葉県野田市）[神奈川支部]	対応：皆川
14：平成 29 年度神奈川県シカ対策専門部会（神奈川県庁）[神奈川支部]	対応：皆川
15：NPO 広報のためのデジカメ講座（横浜市青少年育成センター）[神奈川支部]	対応：皆川
16：環境省水鳥救護研修センター・運営協議会	出席：新妻、箕輪、齊藤
16：東京環境工科専門学校生・野生動物救護実習（東京環境工科専門学校）[神奈川支部]	対応：皆川

野生動物救護獣医師協会（ホームページ）<http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 101 2017.6.25 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パルクビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫 編集文責：小松 泰史 編集担当：箕輪 多津男
